

■ 論文 ■

景観の評価と構成要素 ——安曇野景観意識調査——

中野 康人
(関西学院大学社会学部)

岡本 卓也
(関西学院大学社会学部)

渡邊 勉
(関西学院大学社会学部)

■ 要 旨 ■ 本稿の目的は、2010年3月に長野県安曇野市で実施した景観に関する意識調査の概要を報告することにある。この調査は、安曇野市民の景観に対する意識や行動とともに、過去の地域移動の経歴や思い出をたずねている。有効回収数は580票（標本数1080、回収率53.7%）である。母集団の人口構成と比較すると、年齢が高めの層が若干多い。安曇野市民の景観に対する評価は極めて高く、山を始めとする自然環境が重要な要素となっている。自然景観への憧憬は、現時点での評価だけでなく、思い出の風景にもあらわれている。

■ キーワード ■ 景観, 安曇野市, 思い出

1 調査の経緯

景観は、物理的に実存するものであると同時に、人々の認知や評価によって構成されるものである。人々が暮らす街の景観は、各個人が所有する私有物の総体として成り立っている。このとき、「良い」景観について、人々が同じものと同じ評価を与えるのであれば、問題は発生しない。しかしながら、異なる景観を志向する他者が同じ場に集まってしまった時、そこに景観問題が発生する。社会的に「良い」景観が定義され、そうでないものを規制することが可能であるならば、問題は「解決」するかもしれない。しかし、景観の構成要素は基本的に人々の私有物であり、人々はそれを自由に使用する権利がある。「良い」景観という社会的利益のために個人の自由を規制するという意味において、景観の問題は、個人と社会の相克のメカニズムとして捉えることができる。松原（2004）は、景観を形成する要素としての法規制について次のような指摘をしている。



図1 安曇野市の位置

曰く、憲法が想定している日本社会における土地所有権の「自由」は、ジョン・ロック思想のいちばん極端な解釈を徹底したもので、欧米と比較して土地の取引や使用が「野放し」であるという。一方、そのロックの母国であるイギリスでは、景観に関しては個人の自由が制限され、伝統的な街並が保持されている。

世界遺産に登録されるような歴史的街並や自然景観等、多くの人々が認める「よい景観」というものがある。その成り立ちは気候や風土に影響された必然的な構成物であったらう。しかし、その景観を維持・継続していく際には、とくにグローバル化が進み、変化が激しい現代社会においては、なんらかの規制やルールづくりが不可避である場合が多い。



図2 安曇野市景観写真

2002年の景観法施行もあり、近年、景観の問題が社会問題化してきている。歴史的な街並や、特異な自然景観といった、特別な景観に限らず、日常的な生活空間における景観も問題となっている。

例えば、兵庫県芦屋市は、景観法に基づいて市域全体を「景観地区」に指定している。2010年2月には、JR芦屋駅北側にて計画・申請されたマンション計画について、「周辺の景観と調和していない」ことなどを理由にして、市がその申請を認定しないということがおこった。従来の建築基準法や都市計画法の枠組みをこえた、「景観」という観点からルールを適用していこうとする画期的な事例である（日経アーキテクチャ2010）。

そもそも、人々は何をよい景観と捉えているのか。どのような側面が市民共通のよい景観となりうるのだろうか。この調査は、そうした問題意識から出発している。社会の人々に共通して評価される「良い」景観の要素を抽出することができれば、社会的に合意されやすい「良い」景観を設定することができる。

本稿では、先端社会研究所景観／空間プロジェクト意識調査班が分析対象としている「安曇野調査」の調査結果の概要を紹介する。この調査を企画するにあたって設定した research question は、次のとおりである。

- ・安曇野市民は安曇野の景観をどのように評価しているか
 - 社会的属性、社会関係資本、社会移動との関係
- ・安曇野の景観を構成すると人々が認知している要素は何か
 - 社会的属性、社会関係資本、社会移動との関係

- ・景観の認知や評価が安曇野市民の生活の質や主観的幸福感にどのような影響を与えているか

2 安曇野市の概要

調査の内容に入る前に、調査対象である安曇野市の概要を紹介する。表1は、安曇野市のweb siteに掲載されている市の概要である¹⁾。安曇野市は、長野県の中央部北よりに位置する市で、松本市に隣接している。人口は10万弱、市域の西側は北アルプス、東側も山地が広がる。市中央部は、扇状地が広がり、南北に犀川が流れ、伏流水の湧水と堰・用水路もあいまって豊かな水に恵まれた土地である。安曇野市という自治体自体は、2005年に豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の五町村が合併してできた若い市である。JRの大糸線と篠ノ井線が走る他、長野自動車道の豊科

表1 安曇野市の概要

【人口】	99,230人（男48,107人／51,123人）（2010年2月28日現在）
【世帯数】	36,654世帯（2010年2月28日現在）
【面積】	331.82平方キロメートル
【2005年合併前町村名】	豊科町／穂高町／三郷村／堀金村／明科町
【水稻の収穫量】	2万トン（県内1位） ※平成21年度農林水産統計調査
【製造品出荷額等】	8,114億円（県内1位） ※平成20年工業統計調査

ICが1988年に開通している²⁾。農業人口は11.3%³⁾で、農業が盛んな土地柄であるが、精密機械工場も進出している。松本市のベッドタウン、別荘地という性格もある。

自治体名としての安曇野は最近できたものであるが、安曇野という名称そのものはそれ以前から人口に膾炙しており、わさび田、道祖神などとともに旅情豊かな風景を醸し出している⁴⁾。安曇野市行政が念頭においている市の景観問題は、豊科IC開通に伴うロードサイドショップの林立、新規の住宅開発などがあげられる。

3 調査企画の概要

表2は、今回の調査企画の概要である⁵⁾。調査実施にあたっては、信州大学人文学部社会学研究室（村山研一教授）および安曇野市役所と連携し、調査票設計へのアドバイス、住民基本台帳閲覧への協力をいただいた。母集団は、標本抽出時点で安曇野市に住民登録している20才以上74才以下の男女で、地域的な分散を確保するために、108の行政区ごとに10標本ずつを系統抽出した。対象者には、まず調査の依頼状を送付し、その後返信用封筒を同封した調査票を郵送した。実査時

1) <http://www.city.azumino.nagano.jp/>

2) 1993年には長野自動車道・豊科IC～更埴JCTが開通し、中央自動車道・長野自動車道、上信越自動車道が接続された。

3) 2005年国勢調査にもとづく。

4) 金子（2010）によれば、JTBのガイドブックシリーズでは1977年にはじめて「安曇野」という独立した項目が登場したという。

5) 調査実施にあたっては、関西学院大学の2009年度教育研究活性化資金「基礎的研究」の支援を受けた。2010年度以降は、関西学院大学先端社会研究所の景観・空間プロジェクトの一部として分析作業を進めている。

表2 調査企画の概要

【調査名】	安曇野市民の生活と意識に関する調査
【母集団】	2010年3月1日現在、安曇野市に居住する20歳以上74歳以下の男女
【標本抽出方法】	住民基本台帳から108の行政区ごとに10標本ずつ系統抽出
【調査対象者】	1080名
【調査期間】	2010年3月8日～2010年3月23日
【有効回収数】	580票（郵送552票、web回答28票）
【有効回収率】	53.7%
【調査方法】	郵送自記式、一部web回答
【web調査URL】	http://www.soc-nakano.net/azumino.html
【実査委託先】	NPO法人SCOP

の挨拶文には、回答方法としてインターネットが利用できる旨説明し、webでの回答も促した。結果として、552票が郵送で返送され、28票がwebで回答された⁶⁾。有効回収率は、全体で53.7%である。

web調査票は、紙媒体と同じ文面の調査票をwebブラウザで閲覧できるようにhtml化し、あてはまる選択肢をブラウザ上でクリックすることにより、回答ができるように設計した。自由記述についても、回答欄に直接テキストを入力できるようにした。選択・記述された回答は、最終的に画面上の送信ボタンを押すと、そのままデータ化されて調査者のサーバに蓄積される仕組みである。悪戯を防ぐために、郵送した依頼文にweb調査票アクセス用のIDとパスワードを記載し、それ無しでは調査表の閲覧および調査への回答ができないようにした⁷⁾。

先述の research question を中心的課題にすえて、以下のような質問項目を調査票に取り入れた。

郵便番号性別、生年、住居形態、農地所有、居住地・居住時期、安曇野景観の具体例、安曇野景観の欠かせないもの、安曇野景観の重要であるもの、安曇野景観の印象心に残る思い出の風景、安曇野市の印象、変化した景観、近所付き合い、近隣への意識、地域で重要なこと、安曇野・松本・長野・東京のイメージ、理想のまち、まちの魅力、居住希望、職業、同居家族数、健康状態、暮らし向き、主観的幸福感

以下では、これらの設問のうち、中心的ないくつかについて単純集計レベルの紹介をおこなっていく。

- 6) 実査期間の最初の数日間、挨拶文に記載されたURLにアクセスできないという不備があった。web回答を試みた回答者は28人より多くいたものと推測される。
- 7) このIDとパスワードは、全対象者共通のものとした。web調査の潜在的欠点である重複回答を防ぐには、個別のIDを発行した方がよいといえるが、回答者の特定化の懸念から回収率がさがすることを考慮して、全体で統一したIDとした。web調査票を設置しているサーバーのlogを参照した結果、何件かの「ボタンの押し間違い」によると思われる重複回答が確認できたので、有効票から除外した。

4 調査の結果

4.1 回答者の概要

最初に、回答者の属性についてその単純集計を概観し、どのような人が回答を寄せてくれたのかを確認する。また、安曇野市の官庁統計から判明する範囲で、母集団とのずれを検討する。

まず、回答者の地理的分布について。標本抽出段階では、108の行政区からまんべんなく標本を抜き出した。調査票には、回答者居住地の郵便番号をたずねる項目があり、それにもとづくと、20の異なる郵便番号区が集計された。それぞれの郵便番号について Geocoding.jp⁸⁾ を利用して代表地点の座標情報を取得し、地図上にプロットしたものが図3である。図中の点の大きさは当該郵便番号区の標本数に比例している。安曇野市の住所別郵便番号は、「その他」(399-8200)を除くと全部で20件である。回答者は、おおよそ市域の広範に分布していることがわかる。



図3 回答者の分布（郵便番号に基づく）

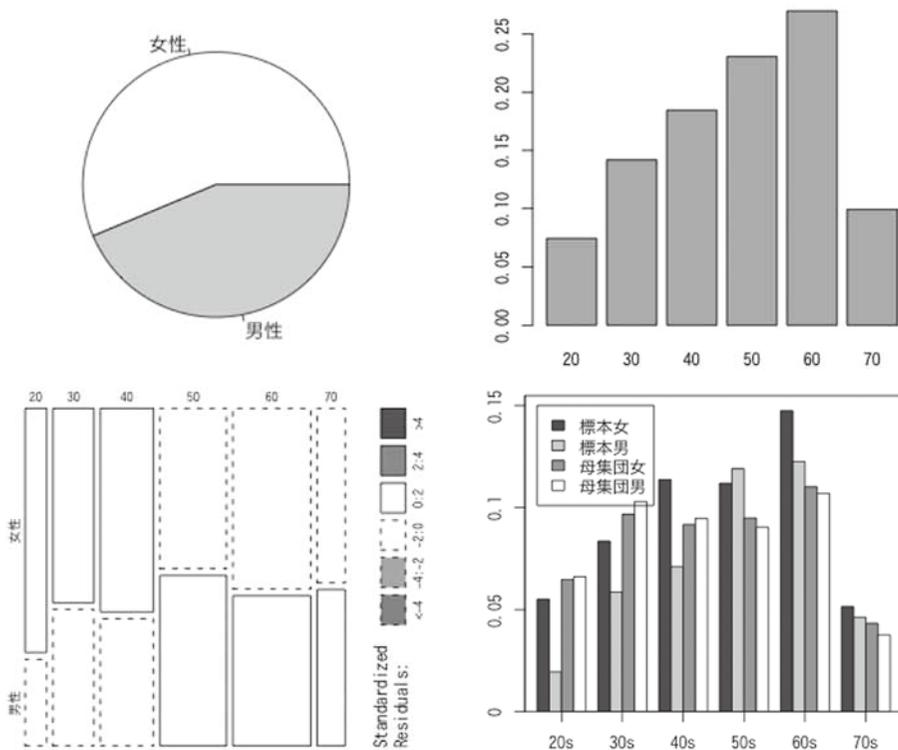


図4 性別と年齢の分布

8) <http://geocoding.jp/>

性別と年齢の分布は、図4のとおりである。回答者の57.3%が女性である。母集団では、女性の比率が51.8%なので、若干性別に偏りがあるといえる。年齢構成としては、60代が27.0%、次いで50代が23.0%となり、50代と60代で回答者の半数となる。母集団における性別・年齢構成と有効標本における性別・年齢構成を比較すると、全般に標本では50代以上の構成比が母集団に比べて大きくなっている。逆に、20代から40代の特に男性の構成比が母集団に比べて少ない。

回答者の住居形態（図5）は、90.7%が「持家戸建て」である。2005年国勢調査によれば、安曇野市全体の「持ち家率」（持ち家世帯数／一般世帯数）は、78.2%である。この差は、若年層の回答者の比率が低いことの影響と推測される。

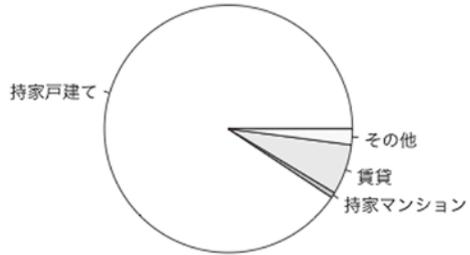


図5 回答者の住居形態

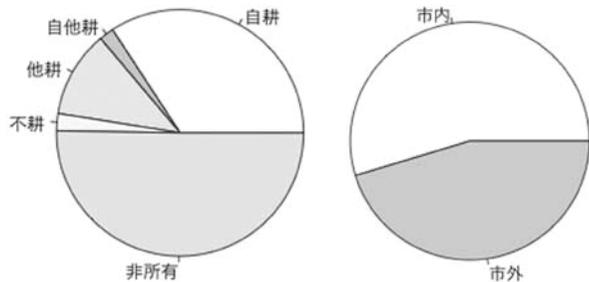


図6 回答者の農地所有

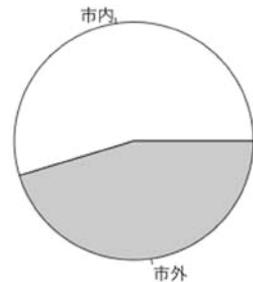


図7 回答者の通勤地

回答者の農地所有の形態をたずねたところ、回答者の半数はなんらかの形で農地を所有している（図6）。全体の約34%が自ら耕作する農地を所有している。農林水産省が公表している「グラフと統計でみる農林水産業」⁹⁾によれば、安曇野市の可住面積に占める耕地の割合は50.4%である。職業としての農業人口自体は11%ほどであるが、非常に多くの市民が、農作業にかかわっていることがわかる。

約75%の回答者が有職で、そのうちの約45%が市外

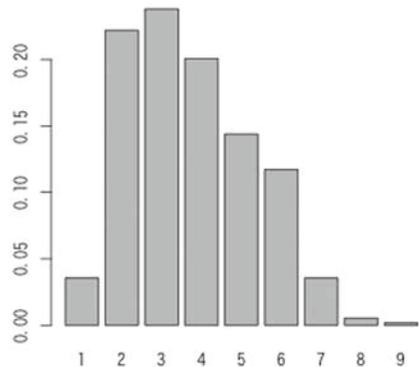


図8 回答者の世帯同居人数

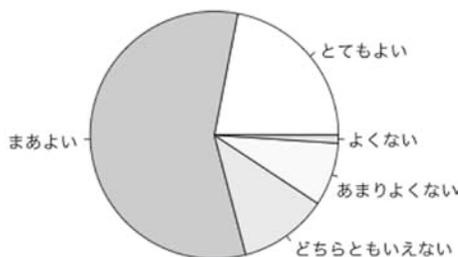


図9 回答者の健康状態

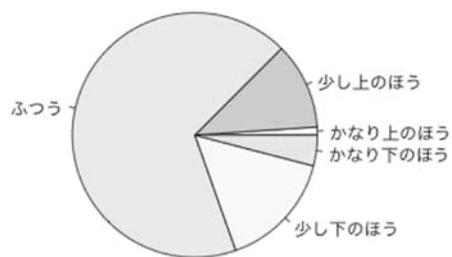


図10 回答者の暮らし向き

9) <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/20/220/economy.html>

で働いている（図7）。総務省の「統計で見ると都道府県・市町村（社会・人口統計体系）」¹⁰⁾によれば、安曇野市における他市区町村への通勤者比率は34.0%であり、ほぼ同じ比率となる。

回答者の世帯人数は、平均3.7人、中央値4人である（図8）。一人暮らしの回答者は約4%で、2~4人世帯が66.1%を占める。2005

年国勢調査では、安曇野市の一人暮らし世帯は、全世帯中の20.5%となっている。この点についても、若年層の偏りの影響があるものと思われる。

回答者の健康状態は、「とてもよい」と「まあよい」でおよそ80%になる。回答者が感じる暮らし向きは、68%が「ふつう」となっている。回答者の主観的な幸福感は、「とても幸福である」と「どちらかといえば幸福である」で、70%ほどになる。総じて、良好な生活を送っている回答者が多いといえる。

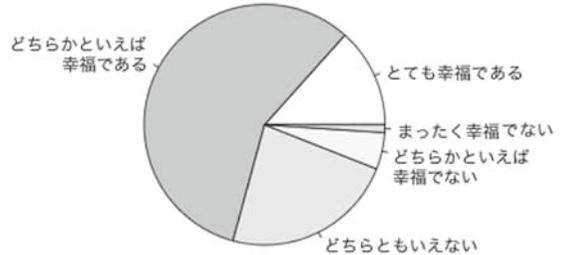


図 11 回答者の主観的幸福感

4.2 景観評価

安曇野市の景観に対する評価を四つの軸（美しい・美しくない、明るい・暗い、好きな・好きでない、変えたい・変えたくない）でたずねた（図12）。

安曇野市の景観が「美しい」か否かの評価は、「美しい」と「やや美しい」で90%を超える。西

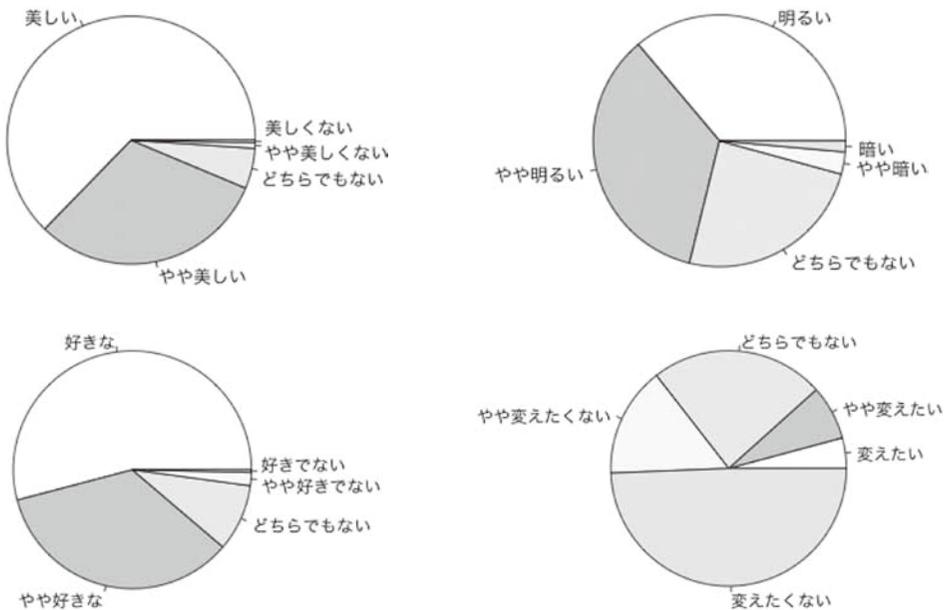


図 12 安曇野市の景観に対する評価

10) <http://www.stat.go.jp/data/ssds/>

宮市で同様の調査をした際は、「美しい」8%、「やや美しい」46%であった（西宮市、2008）。安曇野市の景観が、市民に非常に高い評価を得ていることがわかる。

安曇野市の景観が「明るい」か「暗い」かを評価してもらったところ、「明るい」と「やや明るい」で70%を超える評価となっている。

安曇野市の景観を「好き」か「好きでない」かを評価してもらったところ、「好きな」と「やや好きな」で90%近く、非常に高い評価を得ていることがわかる。

安曇野市の景観を「変えたい」か「変えたくない」かをたずねたところ、「変えたくない」と「やや変えたくない」で65%を超える。

4.3 景観認知

安曇野市の景観のいくつかの側面について、回答者がどのように認知をしているのかをたずねた（図13）。

「山、川など自然と調和している」については、89.2%の回答者が肯定的認知（「そう思う」と「まあそう思う」）を持っている。「デザインの良い住宅や店が多い」については、12.3%が肯定的で、47.5%の回答者が「どちらともいえない」と回答している。「道路や公園などの公共施設が整っている」については、28.7%が肯定的で、36.7%が「どちらともいえない」と回答している。「建物の色や形など、まち全体の調和がとれている」については、12.1%が肯定的で、41.3%が「どちらともいえない」となっている。「家々の庭や生垣などの緑が多い」については、67.5%が肯定的な回答である。「公園や街路樹などの緑が多い」については、50.2%が肯定的にとらえている。「歴史的背景や地形が活かされている」については、27.0%が肯定的で、「どちらともいえない」が49.6%である。「歴史的な建造物が減っている」については、37.6%の回答者が肯定的で、45.7%が「どちらともいえない」と答えている。「見晴らしを悪くする建物や構造物が目につく」については、26.1%が肯定しており、「どちらともいえない」が35.2%ある。「電線やのぼり旗が目につく」については、53.8%が肯定している。「らくがきやポイ捨てゴミが多い」については、42.1%が肯定している。「派手な看板や広告物が多い」については、肯定的なのは29.6%で、「どちらともいえない」が39.4%である。

自然や緑に関する項目には、多くの市民が肯定的な認知を持っていることがわかる。一方、建物や施設のデザインや調和といった側面については、中立的な回答が多い。歴史的な景観についても、中立的な回答が多くみられた。電線やのぼり、落書きやポイ捨てといった要素については、少なからぬ市民が気にしていることがわかる。

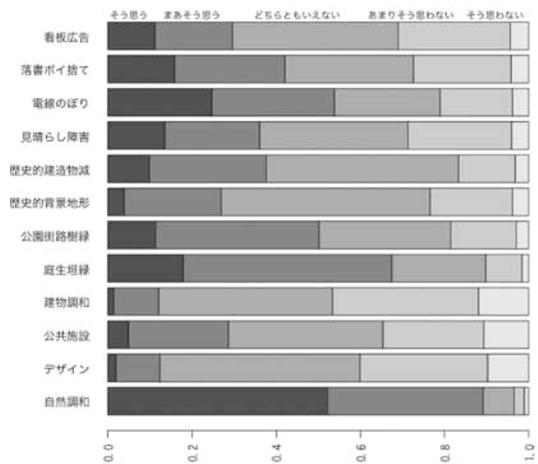


図13 安曇野市の景観の諸側面に関する認知

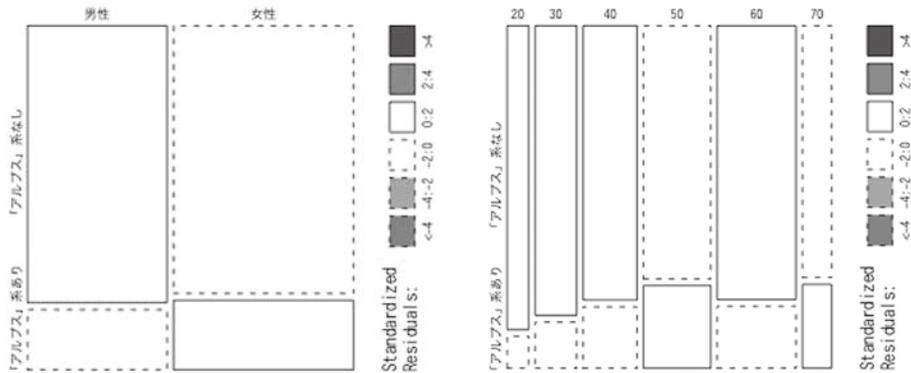


図 15 アルプス関連の単語と性別・年齢の関係（安曇野の景観）

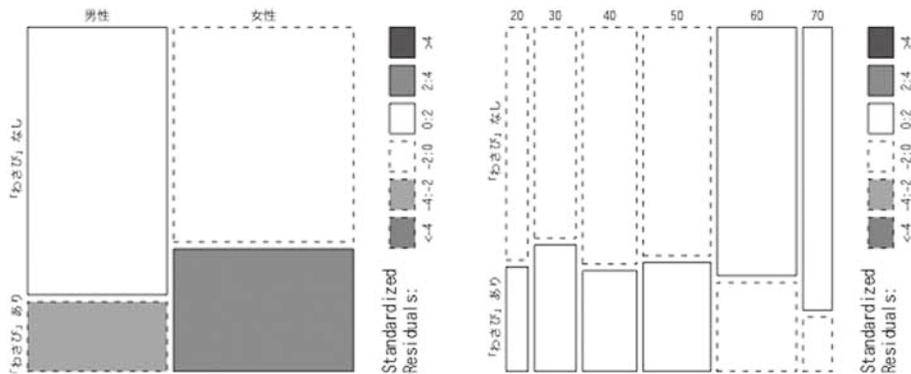


図 16 わさび関連の単語と性別・年齢の関係（安曇野の景観）

さらに、各属性が各記述の有無にもたらす影響をみるために年齢と性別を説明変数に、各記述の有無を被説明変数としたロジスティック回帰分析をおこなってみた。「アルプス」関連については、独立性の検定と同じく、年齢のみが有意で、年齢が高い程記述があるという傾向になっている。一方、「わさび」関連については、男性よりも女性の方が言及するという性別の効果がある一方で、年齢が高い程「わさび」に言及しなくなるという傾向が有意に現れた。

4.5 心に残る思い出の風景

「心に残る思い出の風景」の回答をテキスト分析したところ、表4、図17のような単語が抽出された¹⁷⁾。「安曇野市以外のことでもかまわない」としているにもかかわらず、ここでも、「北アルプス」「山」「アルプス」「常念岳」「光城山」といったアルプス関連の言葉が上位にきている。「田」「田んぼ」「水田」など農業関係の言葉多い。

安曇野景観の具体例と同じく、「アルプス」関連の有無ならびに「わさび」関連の記述の有無と

17) 具体的な質問文は以下のとおり。
あなたにとっての「心に残る思い出の風景」はどんなものですか。具体的な場所の名前やそこに見えるもの、そこの思い出などを、ご自由にお書きください。安曇野市以外のことでもかまいません。

表4 「心に残る思い出の風景」の頻出単語（頻度）

風景 (111)	安曇 (71)	北アルプス (66)	こと (61)	山 (57)	頃 (50)	川 (49)
アルプス (47)	野 (45)	とき (39)	さ (38)	田 (36)	水 (35)	時 (34)
中 (34)	わさび (33)	きれい (32)	常念岳 (32)	田んぼ (32)	桜 (31)	畑 (31)
山々 (30)	穂高 (29)	景色 (28)	春 (28)	海 (27)	自然 (27)	山脈 (26)
冬 (25)	光城山 (24)	前 (23)	市 (22)	松本 (22)	雪 (22)	事 (21)
場所 (21)	水田 (21)	念 (21)	夏 (20)	空 (20)	今 (20)	秋 (20)
野市 (20)	花 (19)	子ども (19)	子供 (19)	村 (19)	田園 (19)	の (18)



図17 「心に残る思い出の風景」

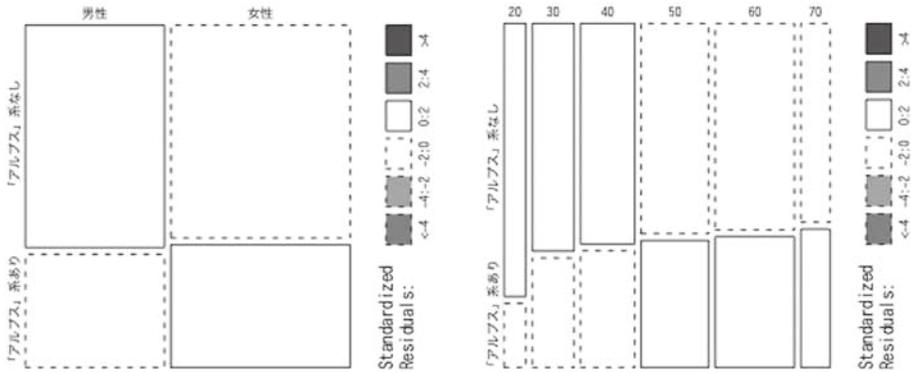


図18 アルプス関連の単語と性別・年齢の関係（心に残る思い出の風景）

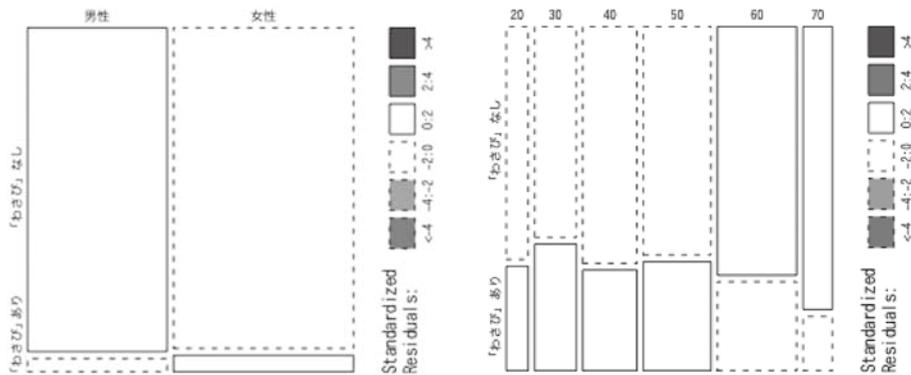


図 19 わさび関連の単語と性別・年齢の関係（心に残る思い出の風景）

属性との関係を確認した（図 18、図 19）。

「アルプス」関連については、性別¹⁸⁾も年齢¹⁹⁾も単相関レベルでは有意な関連は見られない。しかし、性別と年齢を説明変数とし記述の有無を非説明変数にしたロジスティック回帰で分析すると、年齢のみ効果があることが確認された。年齢が高くなる程、「アルプス」関連の記述を行う傾向が強まっている。

「わさび」関連の単語についても、単相関レベルでは年齢²⁰⁾も性別²¹⁾も有為な関連はみられない。二つの属性を同時に投入したロジスティック回帰でも、有意な関係は見いだせなかった。

5 まとめと今後の課題

以上、ここまでの知見を簡単にまとめる。有効標本は多少の偏りがある。安曇野市民全体に結果を一般化する際はこの偏りに注意する必要がある。景観に対する評価は極めて高い。特に、自然的な要素への注目度が高い。安曇野の景観として思い浮かぶものの第一は、山に関することである。山の景観は、心に残る思い出の景観としても主要な要素となっている。

本稿では、調査項目の単純集計レベルのまとめにとどまっている。今後は、各項目間の関係を詳細に分析していく必要が有る。景観評価がどのような要素の認知に支えられているのか、また、それらが回答者の地域移動をはじめとする社会的な要因とどのような関わりがあるのか。冒頭に掲げた research question を実証していく作業は、稿を改めて論じたい。さらには、安曇野市と他市との比較も視野にいれてプロジェクトの研究を進めていく。

参考文献

- [1] 金子直樹、2010 mimeo、先端社会研究所景観・空間プロジェクトセミナー報告資料（2010.06.21）。
- [2] 松原隆一郎、2004、「経済発展と荒廃する景観」、松原隆一郎・荒山正彦・佐藤健二・若林幹

18) $\chi^2 = 0.3985$, $df = 1$, $p\text{-value} = 0.5279$

19) $\chi^2 = 7.0598$, $df = 5$, $p\text{-value} = 0.2162$

20) $\chi^2 = 6.3538$, $df = 5$, $p\text{-value} = 0.2733$

21) $\chi^2 = 0.1198$, $df = 1$, $p\text{-value} = 0.7293$

夫・安彦一恵著『〈景観〉を再考する』青弓社.

[3] 日経アーキテクチャ、2010、芦屋の集合住宅協議後の変更案に景観法で「待った」、『日経アーキテクチャ』、924:39-41.

[4] 西宮市、2008、『平成 19 年度 西宮市市民意識調査報告書』.

ABSTRACT

Evaluations and Components of Landscape: Azumino Case

NAKANO, Yasuto¹⁾; OKAMOTO, Takuya²⁾; WATANABE, Tsutomu³⁾

The purpose of this paper is to report results of a descriptive analysis of a social survey conducted in Azumino-city, Nagano-pref., Japan. The theme of the survey was “landscape” as faced by respondents in their everyday life. The survey was held in March 2010. Respondents evaluate their city’s landscape very positively. “Mountains” is one of the most frequently mentioned words as a concrete item of Azumino’s landscape.

Keywords: landscape, Azumino, memory

1) Kwansei Gakuin University

2) Kwansei Gakuin University

3) Kwansei Gakuin University